カルメル
霊性センターニュース

宇治カルメル修道院

2019 年 10 月　　357 号

【教会からの巻頭の言葉】「イエスにお目にかかりたいのです」（ヨハネ12章21節）

1　キリストは生きておられます。このかたはわたしたちの希望、この世界で最高峰の若さです。触れるものすべてが若返り、新たにされ、生命力にあふれ出します。ですから青年キリスト者にわたしが伝えたいのは、この言葉です。このかたは生きておられ、あなたに生きる者であってほしくてたまらないのです。

2　このかたはあなたのうちにおられ、あなたとともにおられ、あなたを決して見捨てません。あなたがどれだけ離れても、復活された方はそこにいて、やり直すようあなたを呼び、待っておられます。悲しみ、恨み、恐れ、疑い、挫折により、自分が老いたと感じても、あなたが力を取り戻せるよう、その方はそこにいてくださいます。

112　神はあなたが大好きなのです。人生に何があろうとも、決してこれを疑ってはいけません。
いかなる状況にあっても、あなたはどこまでも愛されているのです。

（教皇フランシスコ　使徒的勧告　『キリストは生きている』2019年3月25日発行　から）

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４０

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

心の泉

十字架の道行き（宇治カルメル会修道院）

DE　IMITATIONE　CHRISTI
キリストにならう　バルバロ訳

第三巻

第二十二章　神の多くの恵みを忘れてはならない

４　謙遜の喜び

それゆえ、神なる主よ、人間の目で外から見れば、称賛とほまれを受けるようなものを多く持たないことを、私は恵みだと考えています。したがって、人は、自分の貧しさと卑しさとを思い知っても、それを辛いことや悲しいことだと思って、失望してはなりません。むしろ慰めと、喜びを抱かねばなりません。なぜなら、神よ、あなたはご自分の親しい友として、貧しい人、謙虚な人、世間で軽蔑される人をお選びになりました。それは「あなたがこの世のかしらとして立てた」(詩編45・17)使徒たちが証明するとおりです。彼らは、この世にあって不平を言わず、真に謙遜で単純であり、悪意と偽りをまったく避け、「み名のために、軽蔑されることを喜び」(使徒言行録５・41)、世が嫌悪することを大きな愛でもって抱きしめたのです。

５　何よりも神のみ旨

あなたを愛し、あなたの恵みを知る者は、自分のうちに永遠の計画が実現されていることを知って、何よりも喜びます。そのために慰めを感じて満足し、他人がもっとも偉くなりたいと望むのと同じ心をもって、自分は最後の者になることを願うのです。最後の席に着くことを第一の席に着くのと同様に満足して受け、人がこの世で尊ばれ、あがめられるのを喜ぶように、自分は卑しい者、さげすまれる者、名声も評判もない者であることを喜ぶのです。なぜなら、あなたのみ旨と、その栄光のために働く熱心とは、他のあらゆるほまれにまさるものであり、自分の受けた、あるいはやがて受けるであろうあらゆる恵みにまさって、それを慰めとし、喜びとしなければならないからです。》

１９－10 月　　日々を生きる

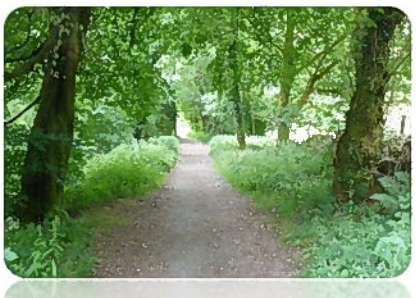
何ごとも心を乱すことなく
　何ごとも恐れることはない
　　すべては過ぎ去っていく
　　神のみ変わることがない

忍耐はすべてをかちとる
　神をもつものには
　　何もかけることがない
　　神のみで満たされる

～アヴィラの聖テレサ～

目まぐるしく変動していく社会で日々生きるとき、神と親しく生きたいと心の深みで望んでも、さまざまな事柄に引き込まれてしまいがちます…思いがけない出来事、周りの反応や批判、自分の限界、失敗などに心は振り子のようにゆれうごきます。しかし、どんなに心を乱されても、深奥におられる神へと向かおうとするなら「何も恐れることはない」とテレサは言います。
すべては過ぎさっていくのだから、朽ちるものにこだわることはない。変わらないのは神だけですと聖テレサはささやき続けます。ですから、何があっても、神とのかかわりを深めていくことが大切ですと。どんな出来事、体験に出会っても、たとえ不条理と思われる出来事でも、そこに神のまなざしを見、神の光を受けるのだと・・・。

聖テレサのとりなしを願って、今日も明日も日々のさまざまな状況の中で歩み続けることができますように。



伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートル・ダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（24）

九里（くのり）　彰

公民権運動の先頭に立ったキング牧師の夢は、人種差別の撤廃であり、社会的次元での真の平等であった。この次元でのさまざまな差別は、各国で法が整備されることによって、徐々に撤廃されて行くことだろう。男女差別然りである。戦前の日本は、明らかに男尊女卑の社会であり、婦人参政権は、1945年の敗戦を待たねばならなかった。74年前まで、男女差別が公然と行われていたことを考えると、実に不思議な感じがする。それは、明治初年の「五榜の掲示」の第三札「切支丹邪宗門ノ儀ハ堅ク御制禁タリ」が明治六年（1873）外国の圧力で取り払われたのに似ている。

しかし、社会的次元での平等は、直ちに差別撤廃とはならない。なぜか。皮膚の「違い」、男女の違い等の違いはそのまま残るからである。目に見えない心理的な次元での差別を撤廃することは、個々人がそのような違いから何の差別意識も持たない、何のとらわれもない自由な広い心――それは、キリストの心、神の心と言ってもいいだろう――になっているかにかかっている。（上述の第三札の突然の撤去は、キリスト教の公の迫害が終わっただけであり、心理的には禁教令は1945年の敗戦まで日本人の心の中では続いていたという指摘は正しいと思われる。）

したがって、差別やいじめの問題は、俄然、宗教的な次元の問題となってくるのである。この世の価値観にとらわれている人は、相手の職業が医師や弁護士、政府の高官や大会社の社長と聞くと、高く評価し、人間そのものは見ない。実に、高貴な家柄であるとか莫大な財産を持っているとか学歴等に重きを置く人は、その物差しをもって人に優劣をつけ、差別しているのである。その意味で、キリストが大工であり、初代教皇ペトロが漁師であったことは、実に象徴的ではないだろうか。あまり頻繁には読まれないヤコブの手紙はきわめて重要である。

私の兄弟たち、栄光に満ちた、私たちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。あなた方の集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたはこちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、私の足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなた方は、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるのではありませんか。（2・1-4）

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（139）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「自然と十字架のヨハネの関係」（1）

十字架の聖ヨハネが自然やその尊厳について持っていた考えは、崇高なものでした。感覚や聖書の言葉で養われ、体験によって練られ、神学者の精神によって生み出された結論は、直ちに生活や行動に関する実際的次元へと移行する傾向が見られます。このこと、真の観想はもっとも実際的で生きたものであるということは、強く強調されなければなりません。

十字架の聖ヨハネのそのような実際的実践的な移行の第一の例は、『霊の賛歌』の第4の歌（CB4）の「愛するお方の手によって植えられた」という句を解説する時、次のように結論することに見られます。「このように、霊魂は、これらの被造物が神ご自身の手で造られたものであることを知るので、これらを眺めることによって、愛するお方である神への愛に強く心を動かされるのである」（同3）。

これは、解説風によくできた主張ですが、『カルメル山登攀』においても、同様によくできた主張を見出すことができます。「感覚的なものを通して、神の方に強く動かされる霊魂もあるからである」（3S24, 4）。このような人々の一人が芸術家であり聖人であった十字架の聖ヨハネであると、私は確信しています。この確信はアプリオリなものではなく、史実に基づいています。彼の身近にいた仲間たち、証人たちの、きわめて単純な一連の供述がそれを物語っています。特に彼がどこでどのように祈りするのを好み、また祈っていたかについての供述は、このことを指し示しています。

＊多くの旅のお供をした十字架のヘロニモは、こう供述しています。

「彼は孤独をとても愛し、それを熱望していました。さらに快い野原や川や泉のあるところを。野外で空が見えたならば、なおさらでしょう」。

「川や泉や空や草原を見ながら、祈っていました。そこで、神の“私の知らぬ何かしら”（un no sé qué）を見るのだと言っていました」。

年間 第２７主日

（ルカ１７：５－１０）

「からし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」

こう言った後、イエスは主人に忠実に仕える僕の話をされました。

「自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。」

この二つの教えに関連があるならば、「からし種一粒ほどの信仰」とは、主人の命令を忠実に果たす「取るに足りない僕」としての生活を意味しているのではないでしょうか。からし種はどんな種よりも小さな粉粒のような種ですが、その中には、大きな木に成長して空の鳥が巣を作るほどの可能性が秘められています。小さな目立たない種の中に、大きく、豊かになる遺伝子が隠されているのです。

僕という身分も、人目を引くことのない地味な身分です。目立たないという点でからし種と同じです。しかし、イエスは、この僕という目立たない身分を忠実に生きることを教えています。畑の仕事が終わり帰ってきたら、腰に帯を締め主人の給仕をする。その後で自分の食事。そして、それをしたからと言って主人は感謝するわけでもない。ごく当たり前の日常的奉仕。しかし、このごく当たり前の目立たない行為の中に、イエスは、桑の木が抜け出して海に根を下ろすことを可能とするほどの驚異的な信仰、希望、愛を込めることができることを教えようとしているのではないでしょうか。

「私は自分のうちに、もっといろいろな召命を感じます。軍人・司祭・使徒・博士・殉教者の召命を感じるのです。自分のうちに、十字軍や教皇親衛隊の兵士のような勇気を感じます。司祭召命を感じます。おお、イエス様！私の呼び声であなたが天からお降りになるとき、どれほど愛を込めて私はあなたを両の手にいただくことでしょう。どれほどの愛をもって、あなたを人々に与えることでしょう。・・・私は小さい者でありながら、預言者や博士たちのように人々を照らしたい。・・・世界の五大陸、もっとも遠い島々にまでも福音を宣べ伝えたい。・・・殉教！これこそ私の幼い日のあこがれ。このあこがれは、カルメル会の囲いの中で私と一緒に大きくなりました。」（幼いイエスの聖テレーズ自叙伝原稿 B）

このような、驚くべき大望を抱いたリジューの聖テレーズは、愛という天職を見つけ、まさに「取るに足りない僕」のような生活の中に、誰よりも大きな大志を込めてその小さな生涯を奉げ尽くしたのです。「愛は、ありとあらゆる召命を含み、愛はすべてである。愛はあらゆる時代、あらゆる場所を包含する。ひとことで言うならば、愛は永遠である」（同上）。テレーズは愛という血液となって、教会のあらゆる肢体に流れ込むことにより、その無限の望みを満たそうとしたのです。そして、死によって、その小さなからし種のような人生の袋が破られました。「今こそ、私の使命が始まろうとしています」と言い残して、地に蒔かれていったのです。

テレーズはまさに、桑の木が抜け出して海に根を下ろすような奇跡を行った聖女だと思います。からし種の中に込められた大きな可能性を育て、死によって殻を破ったのです。

私たちも、ごく些細な日常行為の中に、無限の可能性である愛を込める僕となっていきましょう。

（今泉健神父）

Ｃ年 年間 第２８主日

（ルカ１７：１１－１９）

「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか」

聖ルカは、本日の福音で、十人の重い皮膚病患者のうちたった一人だけイエスに感謝しに戻って来た話を描いています。しかもその人は外国人であるサマリア人だったのです！

当時、皮膚病（ハンセン病）はとても危険な病でした。患者たちは町から遠く隔離された場所で生活しなければなりませんでした。彼らが隔離された生活区域から出る場合には、「ハンセン病者！ハンセン病者です！」と叫んで皮膚病患者である自分の存在を周知しなければなりませんでした。健康体の人は感染を恐れて近づけません。皮膚病患者は、祭司が完治宣言をした場合に限り、共同体に戻って一般社会の中で再び生活することが認められていました。この復帰こそ、まさに新しいいのちと再生である復活体験そのものでした！

福音書に登場する皮膚病患者の態度にも同じような様子が伺えます。彼らは、遠くから「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫びました。すると癒しを求めた十人は全員清められ、祭司に体を見せにいきますが、奇跡的に癒されて新しいいのちをもらったことに感謝するために、神を賛美しながらイエスの元に戻ったのは一人だけでした。その時、イエスは、残りの九人が姿を見せないことに驚き、「清くされたのは十人ではなかったか」と尋ねます。イエスは、九人の恩知らずぶりを不思議に思います。そして私たちも不思議に思うべきです。なぜ九人は、今度はイエスがあたかも皮膚病患者であるかのように離れたのでしょう？ただ私たち誰もが、九人と同じ態度を取る可能性があるので注意が必要です。神に、そして隣人に感謝する徳を実生活の中で育てないといけません。

サマリア人の皮膚病患者は、賛美と感謝のまことの模範です。三位一体の神に対し、自分の健康、幸福、神の摂理、たまものと恵みに日々感謝しましょう。この地上でいただく恵みだけでなく、永遠のいのちと天国の喜びが約束されていることにも感謝しましょう。神と隣人から注がれる思いやりや愛を認め、最適なタイミングと場所で感謝すべきです。私たちは、神に自分のこころと思いを捧げ、忘恩に陥らずに感謝のこころを持つ恵みを願わないといけません。サマリア人のように、私たちも、神と自分たちを助けてくれた人たちのことをじっくりと振り返って立ち戻りましょう。ミサ聖祭にあずかることこそ、イエスの最も尊い御体と御血が与えられたことに対して「大声で神を賛美」できる最高の方法です。

(Sr.Paulina)

年間 第２９主日

（ルカ１８：１－８）

今日のみことばは、「やもめと裁判官」のたとえが語られます。イエスが弟子たちに、気を落とさずに絶えず祈ることを教えられるために、たとえを話されたとありますが、今日、イエスが私たちに気を落とさず絶えず祈るため語られた…と受け止めましょう。

話の中には、神を畏れず人を人とも思わない裁判官、そしてやもめが登場してきます。やもめは夫をなくした女性のことですから、生活の大黒柱を失い、様々なことにおいて、困難があり、また自分の権利を守るには並々ならぬ苦労があったのだろうと思います。

その様なやもめ。自分の主張を認めて貰うために、争いの相手方と話すだけでは埒がきっと明かなかったのでしょうね。ついに裁判官に訴え出ます。お願いする人は、人を人とも思わない裁判官。主人を亡くしてしまった今、その人しか私を守ってくれる人がいない。最初は相手にされなくても、ひたすらひたすらお願いし続けるわけです。

そしてこの裁判官は、うるさくてかなわないから…と裁判をすることになりますが、地上の、ましてや、人を人とも思わない裁判官ですら、この様な状態なのであるから、私たちを愛して下さる天におられる父なる神は、いつまでほうっておくことがあろうかとイエスは言われます。

私たちが祈る際、自分の願いがすぐに実現しない、叶えられないと、不平を言ったり途中で諦めたりすることはないでしょうか。神は全て見ておられ、聞いておられます。
もしかして私たちは自分にとって良いこと良い時期が、全てと思っているのだとすれば、そうではなく神に願い、信頼し、神の時を待つ、神のなさることを最善と信じて待つ…。その様な信仰者となってゆく必要があるのでしょうね。

イエスは言われます。人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうかと。私たちが様々な困難な時にあっても、神への信頼、信仰を失うことなく、歩んでゆくことができます様に。その様に歩める様にと、ご一緒にお互いに祈り合いながら…。

（Fr.　古川利雅）

年間 第３０主日（C）

（ルカ１８：９－１４）

「だれでも高ぶるものは低くされ、へりくだる者は高められる」

この福音のたとえ話は、祈るために神殿にやって来た高慢なファリサイ派の人と謙虚な徴税人を対照的に示しています。イエス様はこのたとえ話で、高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められると教えています。この福音は、イエス様が自分自身を正しいと信じ、ほかの人を軽蔑している人に話しかけることで始まります。

このたとえ話で、ファリサイ派の人と徴税人が登場します。これを読むと、たいていファリサイ派の人は独善的で、高慢で、利己的な人と批判してしまい、そして一方で徴税人は謙遜で正義感のある人と賞賛してしまいます。実際には、ファリサイ派の人は独善的ではなく、責任感のあるファリサイ派の人がふつう行なうことを行なっているのです。それに反して徴税人は他人を騙し、他者を抑圧する人です。ファリサイ派の人が間違えている点は、自分の宗教上の、そして個人的な成功を自身に誇っているようにみえることです。この人が祈るとき、この祈りは自分に向けられています。それは祈りではありません。自分がどのように生きているか、宗教上の規律をどれほど実行しているかを神に伝えているのです。一方で徴税人は、自分の罪深さを意識し、謙虚にそれを認め、憐れみを求めています。心からの彼の祈りは神のみ前に受け入れられ、義とされて帰宅します。真の赦しと義は万能の神によって与えられるのです。私たちは、神の憐れみを願って自分の生活と罪深い自己を神に委ねるだけです。

ファリサイ派の人と徴税人のたとえ話は、多くのキリスト者の態度の欠点に当てはまります。高慢と独善は、神と人との間に、そして人と人との間に垣根を作ります。祈りのとき、私たちは自分の罪深さについて謙虚でなければなりません。誰かを軽蔑したり、咎めたりするべきではありません。祈りの中に仲間たちを加えるべきです。それは真のキリスト者の愛徳のしるしです。私たちは皆罪人であり、赦しを必要としていることを常に忘れてはなりません。

反省してみましょう：神に対する態度、隣人に対する態度はどうでしょうか？ときにファリサイ派の人のようではないでしょうか？自分自身に対して正直でしょうか？自分が価値がないこと、罪深いことを認めて、「神様が罪人である私に憐れみを与えてくださいますように」と言いましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉　10月

あなたにゆだねられている良いものを、
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

（テモテへの手紙二 1・14）

これは使徒パウロが「信仰によるまことの子」[1]テモテにあてて書いた言葉です。テモテはパウロと共に宣教活動をし、エフェソの共同体を任されていました。

この時パウロは自らの死が近いことを悟りつつも、共同体の導き手となったテモテを励ましています。テモテは、福音への忠実さをもって使徒たちから受け継いだ、キリスト教の信仰という「尊いもの」を、次世代の人々に伝えるという重責を担っていました。

パウロ自身も、ただひたすら福音という「喜びの知らせ」を広めるために、命を賭けてでも信仰の賜物を守り抜き、人々に正しい信仰を引き継いでいく覚悟を持っていました。

あなたにゆだねられている良いものを、
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

人々を導き、福音を宣べ伝える使命が果たせるよう、パウロとテモテは聖霊の光と恵みを受けました。そして、彼らとその後継者たちのもたらした証しによって、福音は現代の私たちにまで受け継がれたのです。

現代のキリスト者も、自分の生きる社会や所属する宗教グループの中で、一人ひとりが守り伝えるべき「使命」を持っています。それは、調和ある家庭を築くことや、若者たちの教育に携わることであったり、政治に関心を持つことや精一杯仕事をすること、弱い立場の人を支えることでもあるでしょう。また、福音を実践しながら得られる知恵をもって、学術や芸術分野に貢献することや、神様に自らの生涯を捧げて兄弟への奉仕に生きることかもしれません。

さらに、私たちにゆだねられた「使命」について、若者たちに向けた教皇フランシスコの言葉を借りるなら、「人は皆、遣わされており、そのために地上に生きている」[2]と言えるでしょう。カトリック教会では 2019 年 10 月を「福音宣教のための特別月間」と定めています。私たちが新たな意識を持って、信仰を証しするよう努力する機会となるでしょう。福音からもたらされる愛によって開かれた広い心で、私たちは人々と出会い、受け入れ合い、対話していきましょう。[3]

あなたにゆだねられている良いものを、
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

キリスト者一人ひとりは、聖霊の「神殿」です。聖霊は私たちに「幾多の良いもの」をおゆだねになり、私たちはこれらの良いものを育み、人々のために活用するよう呼ばれています。「幾多の良いもの」のうち一番大切なものは、主イエスへの信仰でしょう。私たちキリスト者は、祈りによって自らの信仰を呼び覚まし、成長させ、さらに愛の実践によって周りに伝えていく使命があります。

叙階されても間もない J・J 神父の体験です。「私は、ブラジルのある大都市のカトリック教会で、多数の信徒を司牧することになりました。その地域は、社会環境が複雑で、出会った多くの人は自分の宗教的なアイデンティティも曖昧でした。そのため彼らはミサだけでなく、土着信仰の儀式にも参加していました。私は、福音に忠実なカトリック信仰を伝えなければ、という責任を感じる一方で、誰もが教会に受け入れられていると感じてもらいたい、とも思いました。」

「そこで私は、こうした人たちの文化的ルーツを尊重するために、彼らの伝統的な民族楽器を使い、ミサをもっと生き生きとした喜びあふれるものにしようと考えました。骨の折れる試みでもありましたが、みんな喜びました。違いによる分裂ではなく、『私たちに喜びを与えてくださる神への信仰』において、一つになれた喜びでした。」

あなたにゆだねられている良いものを、
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

私たちはイエス様からもう一つ、かけがえのない宝をいただいています。それは、イエスの言葉、神のみ言葉です。キアラ・ルービックは語っています。

「この賜物をいただいている私たちには、大きな責任があります。神がみ言葉を下さったのは、私たちが実りをもたらすためです。世に生きる私たちの行動が、み言葉で深く変えられていくよう、神はお望みです。

では今月のいのちの言葉は、どのように実践できるでしょうか。神のみ言葉を愛すること、み言葉をより深く知ること、広い心を持ってみ言葉を生きることです。そうすることでみ言葉は、私たちの霊的生活の基礎的な栄養となり、心の師、良心を照らす導き手となるでしょう。行動を起こすとき、何かを選択する時にも、み言葉こそがゆるぎない基準となるでしょう。人々の意識には行き詰まりや混乱が見られ、何でも許されると考えたり、物事を曖昧なままで済ませたりしがちです。神のみ言葉を生きるなら、こうした危険を避けられるだけでなく、イエスが用いた重要なたとえ（マタイ 5・15－16 参照）にあるように、私たちは『ともし火』となって周りの人々を照らし、彼らが正しい道を見出す助けとなれるでしょう。」[4]

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

1 テモテへの手紙Ⅰ-1 章 2 節
2 2018 年 10 月「世界宣教の日」教皇フランシスコのメッセージ
3 詳細は www.october2019.va を参照のこと
4 C・ルービック 1991 年 10 月「いのちの言葉」

揃い踏み

石原淳子

時間の流れる速さに驚き、過ぎた年月を思い辿りして、あれやこれやの出来事に思わずして幾度も記憶の中にとどまったりしながら、私は今、紙束の古い頁をひっくり返し深い感慨にふけっています。

そしてもう４年も前の事かとあらためてびっくりするのです。

４年前（３１２号）当欄に「ちっちゃな使徒職」と題して上野毛教会主日早朝ミサの楽しい心温まる場面を書き記しました。

教会の古い古い親しいお仲間のひ孫さんのＡちゃんが、早朝ミサのメンバーとして新生児でお目見えし、その後日一日と成長していくのを私たちは毎週のミサの中で、まるで育児日記を読むかのごとくに共にしてきているのですが、そのＡちゃんが３歳になろうとする頃、大人と同じようにミサの奉納祈願のお手伝いをたびたび担当するようになって、その姿、様子は、和やかな喜びで私たちを満たし、神さまの慈しみを身近に感じさせるものでありました。

私はそんなひとこまを拙い一文にしたのでした。

そして今回のこの「揃い踏み」はその続きというのか第２章というべきものであるのです。

現在、Ａちゃんは小学生になりました。　７時のミサの常連さんであることは今も少しも変わってはいません。　でも、実は実はなのです。　Ａちゃんに妹Ｒちゃんがいるのです。　お兄ちゃまになっています。　私たち早朝ミサの面面はＡちゃんの時と全く同じようにして、Ｒちゃんのこともママのおなかの中にいる時から知っていて、生まれて日ごとに成長していくのを毎週ずっとみているのです。　一緒にいるのです。　ママに抱っこされて眠ったままの、白いリボンの髪飾りが可愛い赤ちゃんだったのに、いつのまにか笑う声が聞こえ、興味深げにあたりを見まわし、やがてはいつも並んで座っているおばあちゃまや叔母ちゃまと何やらお話をしているかのような姿を見て、成長の早さにはあれよあれよと驚ろくばかりです。　更にまたの驚きはＲちゃんもまたＡちゃんと全く同じに、ミサ聖祭はなんの抵抗もなくママの胎内の時代から体の隅々まで骨の髄まで沁みとおっていると思われることなのです。　先日のミサでは、神父さまがイテ・ミサ・エスト　派遣の祝福をされるとＲちゃんはすかさずバイバイと言って小さな手を神父さまに振っていました。

ひいおばあちゃまと私は破顔一笑、歓声を上げんばかりでした。

お兄ちゃまになったＡちゃんはＲちゃんのことがほんとうにもうどうしよう

もないほどに可愛くてならないようです。　よくお世話して何かと気遣って優しい優しいお兄ちゃまぶりを発揮しています。　　見ているこちらも心満たされ幸せな気持ちになるのです。　主日の恵みです。

さて、この一文のハイライトも４年前の「ちっちゃな使徒職」のハイライトと同場面となるのですが、今日の７時のミサもいつものように神さまの慈しみの中にあり、早朝の光の中にあらゆる全てを包んで主と共にありました。

典礼の奉納祈願で、深紅のビロード地に金の十字架をあしらったカバーのかかった奉納の籠を、聖堂の後方から祭壇へと奉げ行く運び手のお役目を担ったのは、ＡちゃんＲちゃん兄妹でした。

やっと歩き始めたＲちゃんを、Ａちゃんは優しくエスコートして歩みを揃え、大きな籠を胸にしっかりと抱えて、神父さまのところへと長い通路を進み行くのを、私たちはみな一様に頬を緩めてその一歩一歩を見守りました。

兄妹の所作は全身全霊、天真爛漫。　　聖堂はいっぱいに清らかであり祈りは厳粛に天へと昇りました。

ひいおばあちゃまはキラキラと笑顔で言われました。「揃い踏み　ね」。

「ちっちゃな使徒職」を記した時と同じように、今回もまた私は必然のように教会憲章を取り出し頁を開いたのでした。

『神の民の中に集まり、一つのかしらのもとにキリストの一つのからだを構成する信徒はだれでも生ける枝体として、教会の発展とその絶えざる聖化のために、創造主の恵みとあがない主の恩恵によって受けた自分の力のすべてを用いて協力するように招かれている。』　（第四章　３３）

『聖霊は、人々が心を尽くし、霊を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして

神を愛するように、またキリストがかれらを愛されたように、かれらも互いに愛し合うようにかれらを内面から動かされる。』　（第五章４０）

ＡちゃんＲちゃん兄妹の「揃い踏み」が神さまの慈しみの内にずっといつまでも幸せでありますように———

（上野毛教会信徒）

糸巻き棒からペンへ(46)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

小さな子供は意識をとりもどし、聖女は彼を母親に渡しました。労働者たちは、これは奇跡だと言い始めました。彼女は彼らに、「奇跡だったのは、壁がこれほどいい加減に作られていたにもかかわらず、こわれずに今までずっともっていたことです。私たちは壁をもう一度作り直さなければなりません」と、答えました。お金は足りませんでしたが、彼女は大きな援助を、すなわちアメリカにいる弟のロレンソから、思いがけない形でかなりの額のお金が届くことを期待していたのです（手紙 2･1-2）。

彼女は、（新修道院創立）準備の作業を終わらせる任務を、自ら引き受けました。「教会のために、小さな部屋を整えました。目の細かい二重の木製の格子を通して、修道女たちはミサに与ることができました。また教会に入ったり、修道院に入ったりするための小さな玄関も造りました。すべては、小さく貧しく、ベツレヘムの馬小屋のようでした」。さらなる仕事なしではすまされませんでしたが、最後の困難が克服され、1562 年 8 月 24 日、小さなサン・ホセ修道院が落成しました（『自叙伝』36･5）。テレジアは 47 歳でした。

創立当初はとても困難な状況でした。彼女の友としてとどまったのはほんのわずかで、彼らの忠実さが、その苦難の日々に証しされました。フランシスコ・デ・サルセドは、彼女たちを訪問し、助けていたことにより、人々からのからかいや迫害を耐え忍ぶことになりました。市の評議会はこの件を取り扱うために特別の集会を招集しました。次の人々がこれに呼ばれました。行政長官、4 人の市会議員、2 人の騎士、司教総代理、3 人の司教座聖堂参事会員、5 つの男子修道院の院長と随員（計 10 人）、2 人の市議会の専門家、そして 2 人の市民代表者。女性たちの小さなグループの計画に関して討議するために、25 人の男性が集められたのです。言うまでもなく、市にあった 6 つの女子修道院を代表する女性は、1 人も助言を求められませんでした。いわんや当事者の女性たちは、無視されました。この会議では、ドミンゴ・バニェス神父が唯一の弁護者でした。すべての人が新しい修道院を取りこわすことに決定しかけた時、彼はそれはできない相談だと、皆に警告しました。なぜなら、この修道院は、司教やローマから正当な創立許可を得ているのだから、そんなことをすれば、破門制裁を受けることになるだろうと。

（P. 九里訳）

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>

2019 年 6 月 20 日

“十字架の聖ヨハネ”についての学会

ローマ跣足カルメル修道会国際神学院 テレジアヌムで開催

５月９日から 10 日にかけて“十字架の聖ヨハネ”についての学会が「十字架の聖ヨハネにおける記憶と希望」というテーマで開催されました。

会議の目的は、異なる学問分野が協力し合って、人間の能力である記憶の浄化のプロセスを、対神徳のひとつである希望を通して分析することです。この分析は十字架の聖ヨハネ自信が直接「カルメル山登攀」第３部でとりあげているまさにその章の分析に留まらず、彼の著作全体を考慮して行うものです。

この学会の文献学、哲学、聖書・霊性神学、そして社会学からのアプローチによる研究方法は、神学的伝統に根ざし人類学的にも妥当な、十字架の聖ヨハネの提言の実際的な効力を示しました。それは、危機的な状況や希望の実践に必要な和解に光を当て、人々や社会で持続する対立の痛みの記憶をとり消すものです。

学会の終わりに、十字架の聖ヨハネがより良い未来を築くために記憶（肯定的・否定的）を離れるよう招いている表題に沿って、発言者たちは円卓会議をもち個人的、集団的なレベルでの意見交換をしました。

この学会のすべては、ウェブ ページ (www.teresianum.net) から You Tube アカウント リンクで見ることができます。

（訳：小宮山延子）

カルメル誌　新刊案内

2019年　秋号　No.374

《祈りを学びたい人のために》*******

信仰生活(再)入門　テレーズと共に歩む　幼子の道(7)
—祈りを始めるために(3)主の祈り
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(3)感謝とキリストの愛をたたえる祈り
—コリントの教会への手紙Ⅰ　田畑邦治

エディット・シュタインが教える祈り(II)　須沢かおり

現代社会において　祈りの人となるには(3)　九里　彰

****

風に吹かれて(21)—妖怪サトリ
原　造

キリストに伴われて季節を巡る(7)　伊従信子

イエスの聖テレジアの聖体(エウカリスティア)への信心
松田浩一

六十年を遡って恋をする　森　みさ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(7)　九里　彰

2019年 特集号

「家庭の危機　教会の危機」
—「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル
九里　彰

いっしょにいのちを育みたいなぁ
—家庭と教育の現場から
小林由加

創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵
田畑邦治

キリスト信者の結婚と家庭
—霊的・司牧的同伴からの一考察
松田浩一

聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す
—危機を好機に
大瀬高司

ご案内　　1冊 520円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円（+送料 180円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa ima520@ezweb.ne.jp

福者マリー= ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195
定価**540**円(税込)
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

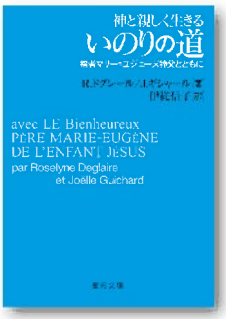
マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー = ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】246
定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー = ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】268
定価**648**円(税込) 281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社 〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

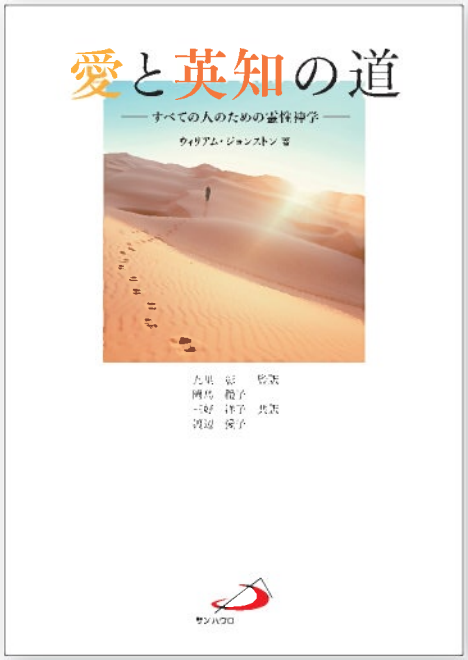
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



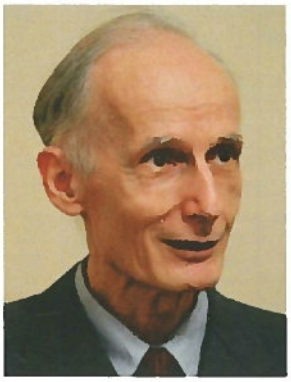
第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【クリスマス】　１２月２４日(火)～２５日(水)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会　（土曜日１８時～日曜日１６時）　大瀬高司 神父

１１月３０日(土)～１２月１日(日)

一泊黙想会　（土曜日１６時～日曜日１６時）　志村武神父

	２０２０年
１１月９日～１０日	１月１８日～１９日
	３月１４日～１５日

~~日帰り黙想会　（１３時３０分～１６時）　福田正範 神父~~

５月以降は全て中止となりました

奉献生活者のための黙想会　（初日１７時～最終日朝食）

※指導司祭は、当初ご案内していた福田正範神父から今泉健・志村武両神父に変更となりました

１０月１０日(木)～１９日(土)　　１２月２７日(金)～１月５日(日)

青年黙想会(男女)　35 歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士

２０２０年

２月１５日(土)～１６日(日)

召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士
１１月２２日(金)～１１月２４日(日)

特別黙想会（初日２０時～翌日１６時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
１１月１５日(金)～１１月１７日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

カトリック教会、福音宣教のための特別月間（10 月）

幼いイエスの聖テレジア（リジュー）の祝日ミサ

宣教の保護者

2019 年 10 月 1 日（火曜日）午前 10：00～　祝日ミサ
＜ミサ後、バラの祝福式＞
＊尚、10 月 1 日（火）の祝日ミサは午前 6：30 もあります。

司　　式：ウイリー神父(カルメル会士)

イエスの聖テレジア（アヴィラ）と福音宣教

2019 年 10 月 15 日（火曜日）午前 10：00～11：50
＜イエスの聖テレジア祭日ミサ：午前 10：00 / 講話：10：50＞
＊尚、10 月 15 日（火）の祭日ミサは午前 6：30 もあります。

司式・講話：松田浩一　神父　（カルメル会士）

上記、いずれも
場　　所：カトリック上野毛教会聖堂
費　　用：献金
交　　通：東急大井町線上野毛駅、徒歩 5 分

お問い合わせ
〒158-0093
東京都世田谷区上野毛 2－14－25
跣足カルメル修道会上野毛修道院
カトリック上野毛教会
TEL　03-3704-2171　　FAX　03-3704-1764

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

特別黙想会　≪わたしは神をみたい≫

2019 年 11 月 15 日（金） 20 時 ～ 17 日（日） 15 時

- 指　導：　伊従 信子　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：　『いのりの道をゆく』伊従 編・著、聖母文庫、聖母の騎士
  （『ひかりの道をゆく』をお持ちの方はそちらも）
  黙想の家にて購入可
- 参加費：　￥13,000
- 場　所：　**カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）**
  〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
  Tel 03-5706-7355
- お申込み：FAX：03-3704-1789
  Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
  または、ハガキにてお申込み下さい。

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所:　カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導:　志村　武神父

会費:　¥6500

日時:　2019年　5月25日(土)～26日(日)　16時開始、翌日16時まで

7月　6日(土)～ 7日(日)　〃

11月　9日(土)～10日(日)　〃

2020年　1月 18日(土)～19日(日)　〃

3月14日(土)～15日(日)　〃

＊お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
〒158－0093　東京都世田谷区上野毛2－14－25
TEL.03－5706－7355
FAX.03－3704－1789
Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　　時　：　２０１９年　１０月５日（土）　１３時 から １７時

場　　所　：　カルメル修道会　日比野（本部）修道院　（ カトリック日比野教会 ）

プログラム　：　１３時　～　講話・黙想など
　　１６時　～　ミサ（ミサ中に教会の祈り）、サルヴェ・レジナ（ミサ後）
　　１７時　　解散

・受付開始は１２時半の予定です。
・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他　：　参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
（ 尚、当日は、１，０００円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。 ）

問い合せ　：　郵便、ＦＡＸ、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便　456-0062　名古屋市 熱田区 大宝 ４－５－１７
ＦＡＸ　０５２－６８１－６４４５
E-mail　hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

次回以降、11月２日（土）、12月７日（土）。

原則１３時から１７時まで。ホームページでもご案内しています。

http://www.carmel-monastery.jp

＜ 主催 ＞　男子跣足カルメル修道会 日比野（本部）修道院　（大瀬神父・古川神父）

宇治カルメル会　黙想会案内
（2019 年 10 月～12 月）

【一般のための黙想】・1 泊 2 日（午後 5 時～午後 4 時）
11 月 23 日（土）～24 日（日）現代を生きるイエスのしるし　中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前 10 時～午後 4 時）
~~11 月 16 日（土）　九里彰神父~~　中止

【水曜の黙想】（午前 10 時～午後 4 時）
~~10 月 30 日（水）　かそけきもの　Br.原造~~　中止
11 月 27 日（水）あなたは世の塩である　Sr.ロサ
12 月 18 日（水）主が生まれる私たちのうちに　中川博道神父

【土曜の黙想】（午後 1 時～午後 6 時）
~~10 月 26 日（土）　「思い悩むな」　九里彰神父~~　中止

【一般のためのカルメル霊性】（午後 5 時～午後 4 時）
~~10 月 12 日（土）～13 日（日）　イエスの聖テレジア　九里彰神父~~　中止
12 月 14 日（土）～15 日（日）十字架の聖ヨハネ　中川博道神父

【奉献生活者の黙想】（午後 5 時～午前 9 時）
11 月 6 日（水）～15 日（金）　中川博道神父
12 月 27 日（金）～1 月 5 日（日）　中川博道神父

【待降節の黙想】（午後 5 時～午後 4 時）
~~12 月 7 日（土）～8 日（日）　「メシアのしるし」　九里彰神父~~　中止

九里彰神父の黙想会は 5 月より金沢へ移動にあたり、全て中止とさせて頂きます
また今後、変更があり次第、掲載させて頂きます

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後４時以降可　チェックアウト午前 11:30{講話なし 各食事つき}

【クリスマス】

12 月 24 日(火)～12 月 25 日(水)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

諸所の企画案内

真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０１９年 － 祈りの集いのご案内

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

２月１４日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

１月１０日　「わたしはある」（ヨハネ8:２４.２８）
２月１４日　「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:１２.１２:４６）
３月１４日　「わたしは門である」（ヨハネ１０:７－９）
４月１１日　「わたしは良い羊飼いである」（ヨハネ１０:１４）
５月　９日　「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ１１:２５）
６月１３日　「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:３５.５１）
７月１１日　「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ１４:6）
８月　　休み
９月１２日　「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ１５:１－１２）
１０月１０日　「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ２８:２０）
１１月１４日　「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
１２月１２日　「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ１８:２０）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

祈りの集い

【2019年10月19日（土）　午後2時00分～5 時30分】

小さいながら神に近づく（パートⅡ）

幼きイエスの聖テレーズの「小鳥の祈り」を基に彼女が生きた観想的いのりをさぐります。

（参考テキスト『いのりの道をゆく』伊従 信子編・著）

＜講話・祈り・分かち合い＞

担当：中山 真里

【2019年10月26日（土）午後2時00分～5 時30分】

アヴィラのテレサ、エリザベットとともに

神はわたしのうちに
わたしは神のうちに

担当　伊従 信子

****

場　所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）
参加費：200円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jesuits.or.jp/　　**込み受付・・開始日の８日前まで**

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
入門B	10/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※ TEL　090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp
広島サダナ Ⅰ&アドバンス	11/15(金)9:00- 17(日)18:00	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034 ※前泊、継続宿泊、通いも可能です。
入門C	11/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※
フォローアップ	2020 年 1/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ 新Ⅰ	1/19(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	同上 ※16時からミサあり。 椅子での黙想です。	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、*090-5325-2518*（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）…体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナⅡ…Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。

◆サダナ新Ⅰ…入門 A.B.C（サダナⅠ）に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０１９年）

◎　所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎　交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎　日　程：

A.　8 日間の個人指導による黙想
初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。
①　5 月　5 日（日）～　5 月 13 日（月）
②　8 月 14 日（水）～　8 月 22 日（木）
③　10 月　6 日（日）～　10 月 14 日（月）
⑤　12 月 27 日（金）～2020 年 1 月　4 日（土）

B.　祈りの体験：週末 3 日間　(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
④　6 月 21 日（金）～6 月 23 日（日）
⑤　7 月 12 日（金）～7 月 14 日（日）
⑥　9 月 20 日（金）～9 月 22 日（日）
⑦　11 月 15 日（金）～11 月 17 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

2019 年 5 月 30 日（木）夕食 ～ 6 月 7 日（金）昼食　　小暮　康久 師（SJ）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　司祭、　ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎　申込み：　1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2）〒住所　3）電話番号　4）希望日程(番号）を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。　先着順 11 名です。

◎ 女子青年　黙想会
①　6 月 15 日（土）15 時～6 月 16 日（日）15 時 30 分
②　10 月 26 日（土）15 時～10 月 27 日（日）15 時 30 分
申込み：唐崎修道院　Sr.桂川 美代（Tel:077-579-2884　Fax:077-579-3804）

◎　その他：　司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。　(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
１４：００～１６：００

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

【2019年予定】　聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

~~*1月24日　まことの家族とは*~~ 終了
~~*「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）*~~
~~*3月21日　祈りと祈りの場*~~ 終了
~~*「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）*~~
~~*5月16日　人間の傲慢*~~ 終了
~~*「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）*~~
~~*7月25日　神の愛と隣人愛*~~ 終了
~~*「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）*~~
~~*9月26日　信仰と救い*~~ 終了
~~*「あなたの信仰があなたを救った。」（ルカ7・50；8・48；18・42）*~~

１１月２８日　神の愛と回心
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」
（ルカ19・10）
１２月１９日　謙遜と従順　（講話の後、ミサ）
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《 守護の天使の記念日 》

日時：2019 年 **10 月 2 日** 水曜日

13 時半　　晩の祈りの練習

14 時　　歌唱ミサ

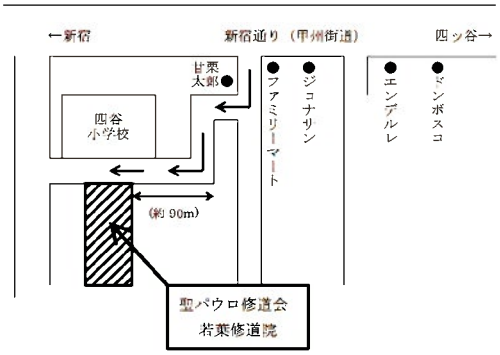
ひきつづき　晩の祈り（歌）（終了予定　16 時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会　若葉修道院

＊上履きをご持参ください

JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車



＜道順＞
四ッ谷駅より
サンパウロ→ドンボスコ→
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約 90m 直進
四谷小学校の正面
＜住所＞
東京都新宿区若葉 1-5

主催：「詩編の会」

「神はその羽であなたを覆い、翼のもとにあなたは逃れる。」

（詩編：91・4ab）

問合せ・連絡先： TEL/FAX 045-402-5131（藤井）

e-mail: shihennokai@gmail.com

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

食欲の秋、読書の秋、芸術の秋…様々に言われる「秋」を迎えます。過酷とも思われた夏を過ぎて、あらためて、「頭を冷やして冷静（霊性的）に考える秋」も付け加える必要を感じるこの頃です。

あらためて思いめぐらす中で、度々戻ってくるものの中に、今年元日の日経新聞のトップ記事があります。過ぎ去った平成の 30 年を振り返りながら、これからの 30 年、テクノロジーが急速に進歩の速度を増し、あらゆることが根底から覆っていく未来のことを取り上げていました。生き方や社会の仕組みが変わっていく中で、「人間とは何か」、「人類とは何か」「幸福とは何か」を考えるべき転換点に立っていると伝えていました。

この秋、あらためて、わたしの人生における、神とのかかわり、隣人とのかかわり、大地・世界とのかかわりを、落ち着いた注意深さをもって思いめぐらす必要を感じています。

（追伸：9 月号の「あとがき」で、デュッセルドルフでの、気温 45 度の体験を書きました時、そこで気管支炎を発症したかのような誤解を与え、いろいろご心配をいただくことになりました。しかし、それは 30 年前のシシリ島での体験を書いたつもりでおりました。訂正してお詫び申し上げますとともに、ご心配いただきましたことを感謝申し上げます。）

Fr.中川博道 o.c.d.

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　１０月２５日(金)　午前１０時頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456